

オオカワズスゲ *Carex stipata* Muhlenb.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 12。温帯域の湿地性植物で、県内では生育地、個体数ともに少ない。

【形態】

多年生草本。地下茎は短く、株をつくる。茎は高さ 30~60cm、鋭い 3稜があり、基部の葉鞘は淡褐色で、やや繊維に分解する。葉は線形、軟らかく、幅 3~10mm である。果期は 6~7 月、花序は卵状円柱形、長さ 3~6cm、小穂は接近してつき、卵円形、長さ 6~10mm、直径 4~8mm、上端に少数の雄花、その下に雌花をつける。苞はあまり発達しないが、下方のものは刺状になる。果胞は開出し、3 角状広披針形、長さ 4~5mm、先端は次第に細まってやや長い嘴となる。雌花の柱頭は 2 個である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 52054, 1994-6-11)、2 豊根 (加藤等次 3265, 1993-7-6)。西：5 稲武 (芹沢 81547, 2009-6-16)。

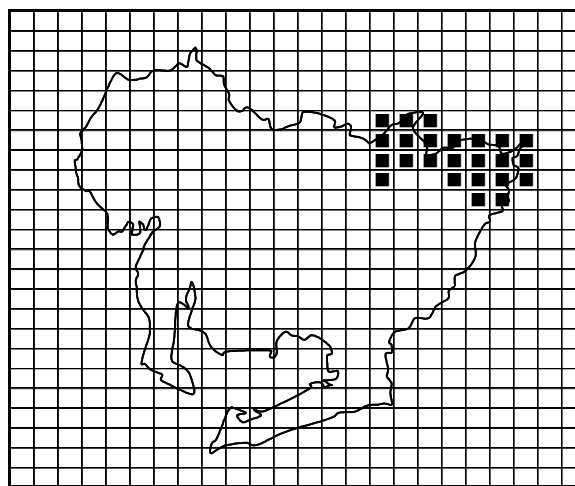
【国内の分布】

北海道および本州 (中部地方以北)。

【世界の分布】

サハラ以南、日本および北アメリカに分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山中の湿地に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  | ○  |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

3 区画の計 4 カ所に小群落がある。豊根と稲武は路傍の小湿地で、道路の拡幅等により失われるおそれがある。富山は、佐久間湖に堆積した土砂でできた低湿地状の場所である。このような環境はダムができる前、あるいはできた直後にはなかったものであり、本種は比較的近年になって侵入・定着したものと思われる。ただし、この場所はシカによる食害が著しく、最近の調査では存在を確認できなかった。

【保全上の留意点】

道路改修などの際には配慮が必要である。

【関連文献】

保草本III p.261, 平草本I p.167, 平新版I p.304, SOS 旧版 p.106.  
勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.58. 文一総合出版, 東京.